

目次

序章	1
1 留保される近代化	1
2 「もう一つの発展論」とオセアニアの地域的近代	6
3 ソロモン諸島の現在－フィールド概観－	12
第1章 「持続可能な開発」－土地意識の覚醒と開発－	21
1 慣習地と開発－歴史的背景から－	21
2 熱帯林と「持続可能な開発」	26
2.1 森林伐採	26
2.2 森林伐採からエコツーリズムへ	30
2.3 持続可能な開発、持続可能な「生活」	36
3 熱帯林の自律的管理(開発)と「カスタム」	39
第2章 「程々の近代」－都市と村落の使い分け－	47
1 首都ホニアラとホニアラ住民	47
1.1 首都ホニアラの成立	47
1.2 ホニアラ住民の還流	49
2 現在のホニアラ住民	52
2.1 マスタ・リウ (<i>masta liu</i>)	54
2.2 定職者にとってのホニアラ	55
2.3 都市と村落の「使い分け」	58
3 近代の貯蔵庫と「程々の」近代	59

第3章 「不公平な平等」

ーエスニック・テンション(国内紛争)が意味するものー	65
1 エスニック・テンションの推移	66
1.1 発端	66
1.2 激化	68
1.3 伝統的和解儀礼と非常事態宣言	69
1.4 報復へ	70
1.5 沈静化	71
2 ガダルカナル島民の要求と IFM	74
2.1 「ガダルカナル島民」とは誰か	74
2.2 近代化のツケ	75
3 エスニック・テンションの中の「伝統」：モロ運動と IFM	76
4 「使い分け」への異議申し立てー IFM の果たした役割ー	80

第4章 「近代的なるもの、政府の責任」

ーコンペンセーション(賠償)を求める人々ー	85
1 コンペンセーションの要求	85
2 コンペンセーションについて：なぜ求めるのか	87
3 コンペンセーションと政府	91
3.1 中傷に伴うコンペンセーション要求 (1989年、1996年)	93
3.2 エスニック・テンションに関わるコンペンセーション (1999年～2002年)	94
3.3 ホニアラ暴動に関わるコンペンセーション(2006年)	98
3.4 「呪文」化するコンペンセーション	98
4 解釈の柔軟性と事態の回復	100

第5章 「満たされぬマジョリティ」－若者の葛藤－	103
1 満たされないマジョリティ：ソロモン諸島の「若者」について	103
2 知識と「無知」	108
3 若者の更生、活性、そして国の再生	113
第6章 「州民アイデンティティ」－州民の「脱国民化」－	121
1 エスニック・テンションからの流れ	121
2 国民的アイデンティティと「カスタム」	124
3 国民国家の「脱国民」化	128
3.1 国民的アイデンティティの揺らぎ	128
3.2 疎外される州民	129
第7章 「開発的公共圏」－国家との向き合い方－	141
1 開発的公共圏としての「州社会」	141
2 NGO と開発的公共圏	144
3 新しい市民社会論とソロモン諸島	146
4 境界の操作と開発的公共圏	149
5 伸縮する開発的公共圏	151
終章	155
1 苦悩と依存－ソロモン諸島近代－	155
2 「自律的依存」とオプティミズム	161
参考文献	167
あとがき	177
索引	183

図目次

図 1	ソロモン諸島国	13
図 2	1人あたり名目 GDP の推移	15
図 3	ホニアラ	48
図 4	ソロモン諸島年齢層別人口(2009年センサス)	104

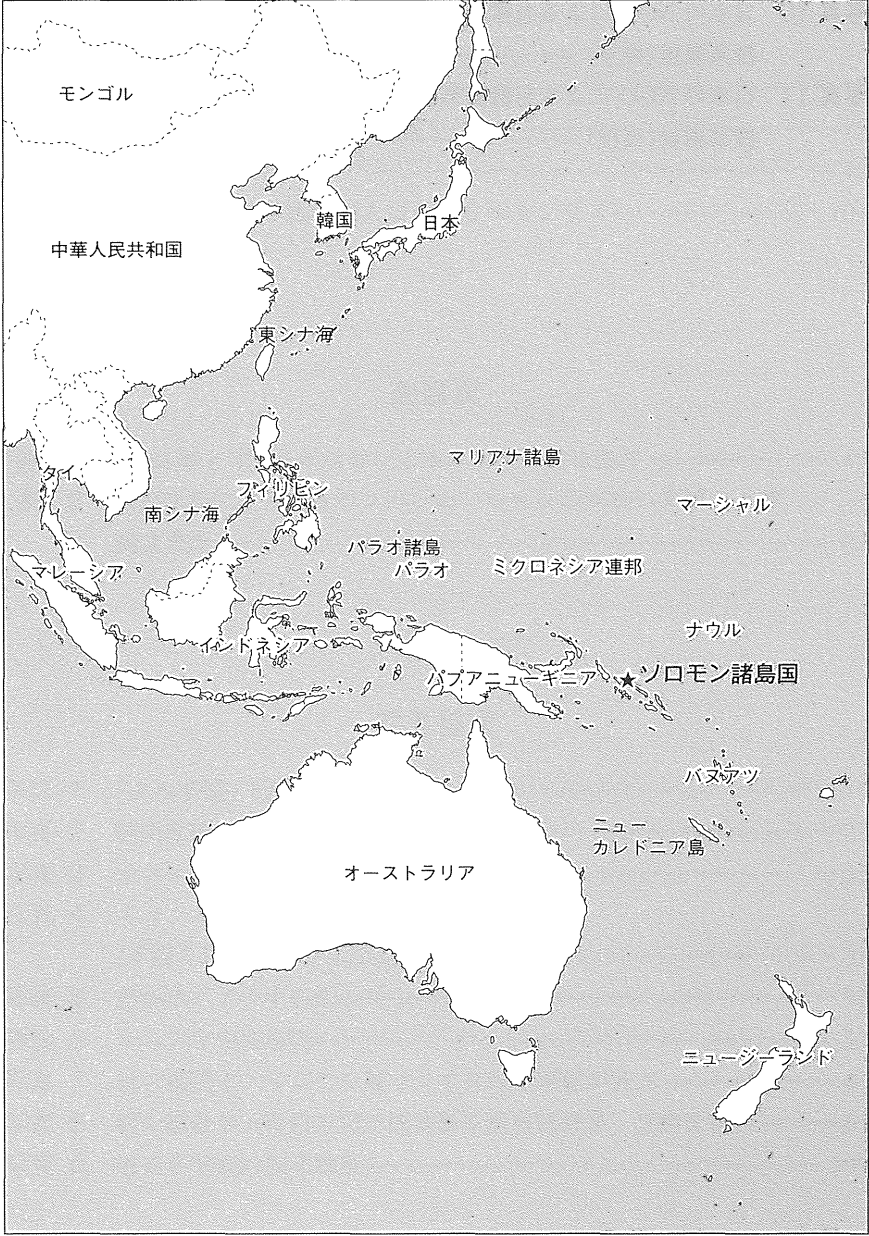
表目次

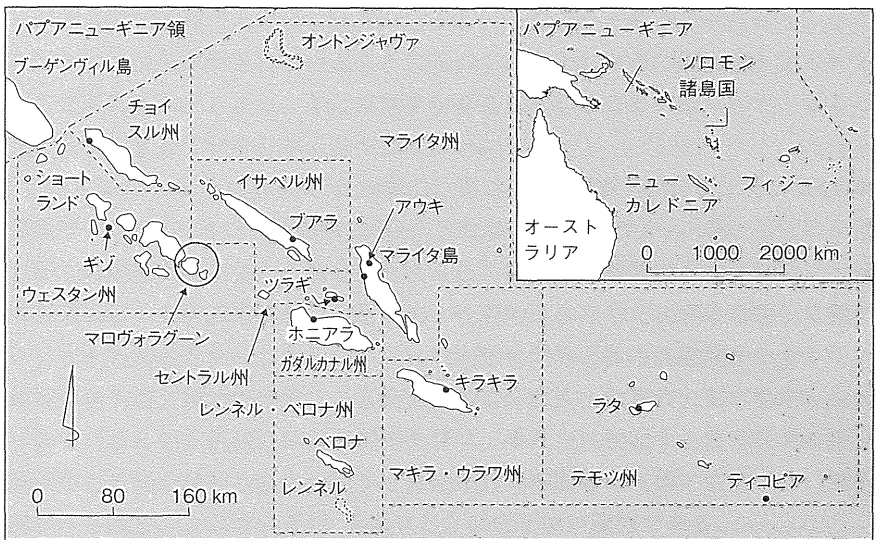
表 1	1959年と1965年におけるホニアラ人口の推移	49
表 2	政府支出による主なコンペンセーションの支払い実績および 関連事項	92

写真目次

写真 1	「よろず屋」的な小規模商店(ストア)	16
写真 2	輸出を待つ熱帯材	27
写真 3	マティクリ・ロッジ	33
写真 4	エコツーリズムのオプションルツアー (木彫り民芸品製作工房見学)	33
写真 5	首都ホニアラ中心部	53
写真 6	ホニアラ中央市場	53
写真 7	村の風景1:サゴヤシ葉でつくられた家屋が並ぶ	61
写真 8	村の風景2:自前の畑で根茎類や緑黄色野菜、豆類を耕作	61
写真 9	村の小学校の授業風景	109

写真 10	日本の NGO による有機農業研修センターにおける 授業風景(座学)	115
写真 11	日本の NGO による有機農業研修センターにおける 授業風景(実技)	115





ソロモン諸島国(筆者作成)